

町田市議会議員・若者育成の街

吉田つとむ

支持政党なし・市議会「保守の会」で活動

町田市議会
〒194-8520 東京都
町田市森野 2-2-22
☎042-724-2171
「保守の会」派室
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



インターンシップ好評

オリンピック運営・費用の情報開示を①

オリ・パラ委員会の会長は、橋本聖子議員に決まり、女性差別問題は一定の収束を示したといえましょう。新型コロナも以前に比べると感染者数が減っており、新会長を推した菅総理は、G7もこの夏の開催を支持してくれたと述べており、これでオリンピックの開催は決定したかのような様相です。

ただし、この間、オリンピックの開催目的が大きく変えられてしまいました。当初は、1964年の東京オリンピックに相当するイノベーションが日本で起きるといわれていました。また、今度の大会では日本の文化を国際交流を通じて発信すると言われてきました。今は、アスリートに声援を送ることと、あるいはオリンピックを開催する自体が、対コロナに打ち勝つことだとされています。

果たして、これではいざ、オリンピックが終了した時点でどれだけの負債を追うのでしょうか。実際に多くを契約するのは東京都です。本来、東京都にオリンピックを誘致した売りは「コンパクト化」でしたが、それを今になって唱える関係者は全くいません。

オリンピック委員の中で、国民負担である税金の使途の面から一貫して考えを持つのは、山口 香さん（オリンピック銅メダリスト、全日本選手権10連覇）一人のようです。今、ここで、強力なアスリート経験もある、山口 香さんの見解、意見をじっくり聞くことで、都政のあるべき姿を検討したいと思っています。



焼却灰の分離で有用資源化状況

予算質疑で下記内容などの詳細を問いました

多摩ニュータウン環境組合（多摩清掃工場）での会議終了後、一人で施設の見学をお願い、焼却灰の分別状況を見せていただきました。

昔は、各市の清掃工場（町田市リサイクルセンター等）で発生する焼却灰を各市とも自らのエリア内で埋め立てしていました。今から20-30年前頃には、日の出町の広域処分場で埋め立てが行われてきました。そして、20年ほど前に、太平洋セメント（当時の日本セメント）が焼却灰を使ってセメントを作る技術を開発し、同じ場所に隣接してエコセメント工場を設置し、現在も、焼却灰の搬入、再資源化が行われています。

その焼却灰には、金属類も含まれており、より重い性質を有していることで、灰の保管用ピットを区分して、より重たい「落じん灰」をまず取り出しています。その他は、主灰、飛灰として、上記のエコセメントとして再資源化されているわけです。この「落じん灰」は、有用な金属類を含んでいることから、金属再生資源として売却されており、環境政策で5年間の固定価格が保障されているという話を伺いました。



焼却灰のピット前で見本を持つ

◎消費税をゼロ%に転換することが国家の急務課題。国が動かないなら地方から声を起していこう！コロナの第4波を避けるため、医療対策優先し、オリンピックを中止しよう！

町田市議会の定例会は、2月19日より始まり、3月29日までのロングランで実施を決定。

町田市議会議員 **3期連続トップ当選**

吉田つとむ

若い世代の育成に全力をささげる



ブログ

HP



メールは
左記を送信
して送信



インターン生募集中

新型コロナ感染と事業縮小

補正予算質疑で、商工振興対策費の「商店街チャレンジ戦略支援事業補助金」の減額に関して問いました。



予算から全体の4分の1ほどを減額する大きなものであり、気になりました。当初、全体で42件の商店街から申請があり、うち14件が取り下げられ、それ以外にも減額のものがあったとの説明でした。これまでの事業では、例年各商店街で行われるお祭りの補助が大半です。

この事業が、商店街の個店商売に関して売り上げ増にどれだけつながるか、効果が出ないではないかと問うてきましたが、令和2年度に実施自体ができなかった場所が上記のように、全体の3分の1もあり、取り止めが生じたわけです。

新型コロナの影響による取りやめ、事業規模の縮小という説明が行政の答えですが、果たして、大きなお祭りをやれば、商店街の各店舗の売り上げ増大、利益の拡大につながるのかという疑問はずっと持ち続けてきたものですが、東京都が出費して行う事業であり、単に、お金のばらまきに過ぎない面が出ています。新型コロナの減少を望むとともに、再度、この事業の在り方の改善を訴えていきたいと思っています。

新型コロナワクチン接種の進展見込み

新型コロナワクチンの接種事業が、町田市などの全ての地方自治体ですでに進められています。必要な予算は国が第3次補正予算を組み、国会で決定しており、ワクチンの購入費用を含めて全額国費（町田市分：約20億円）負担で賄い、町田市は2月19日の定例会初日の補正予算を承認しています。

実施は、医療従事者、高齢者、一般（16歳以上）の順とされ、3月上旬より医療従事者の接種がスタートですが、今後のコロナ拡大の見込みも踏まえて、若者世代を優先するべきではないかと思っています。このコロナワクチン接種事業の中身については、すでに「広報まちだ」で説明されていますが、実施に当たっては、町田市医師会と相談して、市内の医療機関、公共施設で実施されます。その相談のために、コールセンターが開設されています。

新型コロナワクチンが開発された当初から報道されているように、接種は2回、自己負担分はゼロになります。また、接種割合では8割の人が希望する見込みで予想しての計画となっています。今回のワクチンは、その低温管理の必要上、保管・移送に厳密性が求められ、トラブルなく進むことが最大の課題でしょう。



★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施

★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。

今回の議会報告も、いわゆる政務活動費を一切使わずに、自主的に発行しているものです。